

## 特集・今後の日食観測を考える

昨年9月23日に催されたアマチュア海外日食10周年記念会のパネルディスカッションで  
パネラーになられた3氏に原稿をお願いしました。 — 編集部 —

### 今後の日食観測は如何にあるべきか

山下 俊 樹

今世紀中は日本では皆既日食がみられないという不運が、かえって大勢のアマチュアの海外遠征という一昔前迄はみられなかったすばらしい現象を生み出すことになりました。しかしそれは多額の費用と大きな労力や時間を費すことではあり、今後の日食観測のあり方が問題とされるのは当然のことでしょう。

プロと同等の内容の観測、あるいはプロの行い難い分野を開拓することができれば、それはすばらしいと思います。それはしかし簡単なことではなく、われわれの全力をあげた勉学と協力し合う組織が必要だと思います。それに加えて、創意創造の姿勢も不可欠でしょう。私自身可能ならばこうした内容の観測研究をしたいと思います。こうしたレベルの高いものを目指す方向に、今後のアマチュアはいくであろうと思います。

本来は、プロとアマチュアに区別はないはずだと私は思います。しかし現実には立場も組織も情報も大きな違いがあります。そうしたことも考えるとき、アマチュアの観測は最先端を切

るものでなければならないということはいえないと思います。すでに解明されたことでも、もう一度直接に自分自身で確かめることも貴重であり、これはむしろ、プロには行にくい、アマチュアなればこそそのものかも知れません。日食に限らず、われわれアマチュアの行う天体観測の大半はこの部類に属すると思います。そこにあるものが、科学的態度であるならば、それは尊いと思います。

創造の楽しみ、科学する楽しみ、そして味わう楽しみ、こんなことが考えられるのではないのでしょうか。味わう楽しみもわれわれアマチュアはもっともよいと思います。いやそれよりも、どんな内容の観測をする場合にも、味わう楽しみも含めていくことを私は失いたくないと思います。極端なことをいえば、日食を唯眺めるだけに海外遠征をする人があったとしても、それをとやかくはいえないと思います。

コロナの美しさに心うたれ、科学する心をのばし、そこに創造をめざす、このような発展過程も考えられる中に、日食情報センターや観測団の組織は個人では行い難いことへの助力を与えてもらえます。これ迄の日食旅行に於いて、私は何度も個人的に行動している人達に現地で会いました。その人達の大半は情報センターや観測団の事を知りませんでした。われわれの知らない人達で日食観測をしている人達がずい分いるのだなという感じと共に、情報センターや観測団の事を、もっともっと仲間の人達に知ってもらうようにできたらとも思いました。

どなたかがいっておられた、フィルムの標準露光を与える共同設備があったら、という件は同感であると同時に、さらに範囲を広めて、測定の諸設備も含めた共同利用の設備があったらすばらしいと思います。それは日食のみならず、天文全般にわたる利用へと発展させるものかも知れません。

これも誰かの発言にありましたが、できるだけ日程の少い旅行の団体が組めたらと私も思います。旅行にあてる日数が自由になるのもアマチュアの特権かも知れませんが、反面そうそう日食に日数をさくことの出来ないアマチュアの方々もみえると思います。私自身、勤務の関係上必要最小限の日程の旅にすするため、あえて高い旅費の個人旅行をしたこともありました。天気が悪くて日食の見えなかった場合の何か別の収穫を考えたいのはやまやまですが、止むを得ない場合は日食だけの日程の旅を組んで、一かばちかのかけのつもりで曇ったときは、それなりに割り切った気持にもなれるように私は思います。

とりとめのないことを述べましたが、組織をつくって運営していくことは実に大変なことだと察します。気楽に考えを述べるようにはなかなかいかないことは承知の上で、思いつくままを書かせていただきました。